

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 第4回通常総会議事録

1. 開催日時 2017年6月18日(日) 14時～16時55分

2. 開催場所 中央区環境情報センター

(中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン6階 京橋環境ステーション内)

3. 出席状況 正会員総数 133名

有効出席人数 73名 (出席9名、委任者48名、書面表決者16名)

役員：浜田恒太郎 西島香織 田川道子 三本裕子 宮腰義仁(第4号議案より)

正会員：永井亮 富田一 鈴木亮 山口立身 沼畑龍矢 加藤靖之(第4号議案より)

4. 議決権総数 73個

有効議決数 73個(出席9個、委任状48個、書面表決16個)

定刻、定足数の確認を行い、その後司会より、議長として浜田恒太郎を指名することの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認しました。有効出席数及び有効議決権数について確認をし、直ちに議案の審議に入りました。

5. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人として、鈴木亮と富田一の2名を指名したいとの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認しました。

6. 議 事

第1号議案 定款変更の件 (議事次第2ページ目)

東京都からの指示により定款を変更する件について、議決をとりました。

【議決】

◆賛成 73個(出席9個、委任48個、書面16個)、反対0個、棄権0個

第2号議案 2016年度事業報告 (議事次第3～11ページ目)

事務局および各プロジェクト担当理事より、2016年度活動報告について説明をさせていただき、質疑応答を行いました。

【議決】

◆賛成 72個(出席10個、委任47個、書面表決15個)、反対0個、棄権1個(書面表決)

【質疑応答・意見交換】

(1) Fair Finance Guide Japan「遺伝子組み換え産業への投融資に関するレポート」に関して

(参考：<http://fairfinance.jp/bank/casestudies/>)

意見(事前)：昨年公表した遺伝子組み換え作物に関するレポートには賛同できません。遺伝子組み換え作物自体を題材として扱うことを否定は致しません。ただ、科学的根拠の薄弱な主張は、たとえ一部の人の受け

は良かったとしても、専門家コミュニティなどから間違いを指摘され、明快に反論できなければ、放射能デマの如く、社会の信頼を失いかねません。そうなれば、チェック機能が失われ、本当に危険なものが出てきたときに止められなくなる恐れがあります。他団体/個人の主張を鵜呑みにすることなく、よくよく吟味した上で、自らの責任において情報発信されることを願います。

回答（西島／田川）：遺伝子組み換え作物に関しては、確かに、現状は生命に危険を及ぼす明確な証拠があるとは言い難い状況かもしれません。しかし、だからこその他の化学物質と同じように、予防原則という視点から規制がされていない現状に対して懸念を持っています。一方でこのようなご意見をいただきましたので、主張を鵜呑みにせず、協働している PARC、JACSES とよく議論しながら、様々な立場の方の話を参考に、今後も議論を重ねて参りたいと思います。必要であれば、こうした情報発信に関する課題を会員の方と話し合ったり勉強会をしたりする機会を持ちたいと思います。

(2) エコ貯金プロジェクト冊子に関して

質問：エコ貯金プロジェクトで作成した冊子の対象者は、作成当時と変わっているように思えますがいかがですか。

回答（田川）：大枠では変えていません。対象は中学生から若手社会人まで広く対象としています。

第3号議案 2016年度決算（議事次第：12～18 ページ目）

事務局より、2016年度決算について説明を行いました。

【議決】

◆賛成 73 個（出席 10 個、委任 47 個、書面表決 16 個）、反対 0 個、棄権 0 個

【質疑応答・意見交換】

質問：SPRING 会員分以外の受取寄附金の内訳はどのようになっていますか。

回答（富田／西島）：個人寄付約 25 万、マンスリーサポーター約 5 万、すずめの未来市約 4 万（結イレブン共催団体より、売り上げから経費を除いた金額を寄付）、オリエントコーポレーション様約 28 万、Gooddo から 748 円となっています。オリエントコーポレーション様とは現在、密に連絡を取り合っている状態ではありませんが、2 年前にご来訪いただきお話をさせていただく機会がありました。今後も継続的に成果報告などをさせていただきます。

質問：地代家賃の金額はどのように支払われていますか。

回答（富田）：事業費と管理費に分かれており、2016 年度の事業費分は LUSH の助成金から支払いをしていました。

質問：会費の未収金の内容はどのようなものですか。

回答（富田）：活動会員や日常的にコミュニケーションをとっている会員の方の会費を計上しています。現在半数の会員から集金済みであり、残り半数の方からも入金予定です。

7. 報告

討議事項 1 2017 年度事業計画（議事次第：19～22 ページ目）

各プロジェクト担当理事より 2017 年度活動計画について説明し、質疑応答を行いました。

【質疑応答・意見交換】

(1) ひまごみらいプロジェクトについて

質問（事前）：「核ごみプロセス」と「結イレブン」が同じプロジェクトの中にあるのはなぜですか。

回答（西島）：まだチーム内で議論中です。外部に分かりやすく見せる意味で分離したいという意見がある一方で、テーマや目的が重なる部分もあり、分離すべきでないという意見もあります。放射性廃棄物の処理問題については西島中心に若手メンバーで運営していきます。その中で福島復興に関わる部分は「結イレブン」と協働していく予定です。

鈴木：結イレブンは3年半、東日本大震災・原子力災害に対して何がゴールかわからない状況の中で活動し続けてきました。唯一指針になったのが、有機農家の営みと都市と地域の連帯。有機農業と再生可能エネルギーの推進による復興を目指す中で、エネルギー開発の利益が地域に落ちていない現状などをピックアップしており、その中で放射性廃棄物問題も扱っていこうと思っています。

質問：核ごみプロセスをフェアに！プロジェクトは、どの廃棄物を対象に活動するのですか。

回答（西島）：事故前からすでに発生している放射性廃棄物を扱います。脱原発を進めるにあたり、核ごみ問題を避けて通れないこと、何十年も続く問題であることから若者が取り組むべきと考えたためです。

質問（事前）：核ごみ処理の問題の中の「公正で民主的な決め方」について明確にしていきたいです。

回答（西島）：今年度でそれを見出すことが目標です。まずは、現場の声を聞いたり、連続開催のオープンミーティングで議論を重ねたりするところから始めます。

(2) エネルギーとまちづくりプロジェクトについて

質問（事前）：今年度の地球環境基金の申請書では再生可能エネルギーを選ぶ市民を拡大することが掲げられていますが、SEED PLANでは対応する活動が見えません。エネルギーとまちづくりが現状の規模のままだと、申請書とのギャップが大きいと思います。活動の拡大が必要だと思います。

回答（浜田）：エネルギーとまちづくりプロジェクトだけでなく、結イレブンでも再エネ勉強会を複数回開催予定であり、チーム横断で実施していきます。

討議事項 2 2017年度予算（案）報告（議事次第：23～24 ページ目、および別添資料をご参照ください）

2017年度予算について説明があり、質疑応答を行いました。

(1) 予算概要

西島：収支で行くと約200万の赤字予算となっています。事業収益については、今年もA SEED DAYを開催し、その他各プロジェクトでセミナー等を実施していきます。

人件費についてはアルバイトを会計総務担当（富田）のほかに広報担当（長島）を雇用します。特に、広報を強化するための予算も付けました。一番大きな支出には、活動サポート基金（100万円）があります。

(2) ASJの財政状況と対策について（西島）

背景：ごみゼロが独立して丸3年が経ち、地球環境基金助成も新たな3年が始まりました。組織基盤強化はその道半ば。今年、新たな手を打っていきたいと考えています。

現状：会員数は、2013年度から1/3に減って横ばいのため、手を打つ必要があると考えます。財政に関しては財政構造に課題があるため、改善していきたい。2017年度予算の支出に関しては、固定費（人件費・家賃・

光熱費等)が600万円ほど。一方収入を見ると、その固定費の半分以上を助成金(主に人権費分)で賄っているため、助成金依存の状況となっています。

対策:財政基盤を強化し、広報をして人材募集・育成をし、活動の成果を発信することで事業収入・寄付収入を増やしていくという好循環を生み出したい。そのために、活動の環境整備や、自主財源調達のトリガーとなる活動が必要だと考えています。

(3) アクションプランについて(西島/三本)

① 広報強化

現在、具体的に動いているのが広報戦略強化です。まず SPRING 会員・既存会員を大切にエンゲージメントを強化することから始め、イベントのリピーターや関心層への働きかけを強化する予定です。

② 活動サポート基金

今ある資産を使わせていただき、今の ASJ の活動を強化していくために、活動サポート基金という内部の助成金のような仕組みを作りたいと考えています。内部募集をし、活動へのお金と活動整備(トレーニング等)のお金それぞれ50万ずつを拠出する予定です。事業については伴走支援や定点観測をしていき、外部へもしっかり報告をします。理事会内で承認を得たら7月以降募集を開始し、審議させていただきたいと考えています。より細かいことは今後詰めていきます。

③ 自主財源

活動サポート基金は2018年度より自主財源から拠出したいため、財政の3か年計画を作りたい(まだディスカッション段階)。現状の案では、収益は今の3~4倍にしていく計画。これは、管理費が630万円必要なのでその分を賄えるように、600万ほどの収益を目指していきたい。OG/OB含めた資金調達チームを作り、今後議論を重ねます。

【質疑応答・意見交換】

質問:リクルーティングの視点が欠落していることに強い危機感を感じます。(欠席者より事前コメント)

回答(西島):理事会の中で重要項目として位置付けています。開発教育協会などへのアプローチや大学への訪問を通じて、広報活動を広げていきます。

質問:国際環境問題が深刻化・複雑化している中で、どのようにして若者向けにアプローチしていくのですか。

回答(宮腰):学生の取り巻く環境が変化しています。政府や企業も環境問題に取り組み始めているために、差別化が図れない現実もありますが、どんな分野に関心をもっている学生がいるのかを調査するところから始め、学生のニーズ把握に努めます。

質問:近年の主要事業はどのようになっていますか。

回答(西島/三本):ごみゼロナビゲーションチーム独立後、主要事業を作るための中期計画作成を考えています。しかしリソースが少ないために、年度単位でプロジェクトを運営していく事が優先されています。中期計画の必要性について改めて議論します。

鈴木:ASJが全体としてどういった方向へ進むのかについては、2011年に「経済革命 now!」というイベントを開催して方向性を作ったが、その後震災があり、ごみゼロ独立を経て「それどころではなかった」という状態が続いた。さらに社会状況として「省エネしましょう」とか「地域創生」とか、昔 NGO がやってきた

ことを企業や政府が言うようになったため、明快な手段が打ち出せていないと考えます。また、事業を行う際に OG/OB に依頼する場合は、謝金をしっかり支払う仕組みにしないと持続的ではないと考えます。

加藤：中期計画を作らずプロジェクトごとに方針を打ち出すのであれば、「このプロジェクトの目的を達成するためにはどのくらい人が必要で家賃収入はこのくらい必要だ」という目標を、プロジェクトごとに考えて設定する必要があるのではないのでしょうか。

報告事項 2017 年度役員について

理事会で承認された理事の田川道子、西島香織、浜田恒太郎、三本裕子、宮腰義仁より、担当分野および意思の表明を行いました。（監事の小林邦彦からは書面にて意思表示済みです）

また、2016 年度で理事を退任した永井亮、富田一より挨拶をしました。

永井：活動して 4 年半。ここでの活動がなかったら得られなかったことが沢山あった。2015 年からは、関心のあった気候変動問題について活動できた。しかしまだやり切れていないところもあるので、引き続き勉強・活動していきたい。

富田：会計・コンプライアンス担当として理事を 1 年務めた。できるだけ会計をわかりやすくした。2017 年度も事務局スタッフとして会計を担当。ASJ の体制を固めてしっかりやっていきたい。特に今年度はエコ貯金に加えてひまごみらいの活動やエネまちも発展しているのでサポートしていきたい。

浜田：2009 年度、大学 4 年の夏から関わった。生物多様性をフェアに、水源や森のチームを経てエネルギーチームを立ち上げた。今も明確なインパクトを作る難しさを感じているが、しっかりやっていきたい。

西島：事務局長であり登記上の代表となった。ASJ は今、雨降って時固まったところ。要約、攻めの議論ができてきた。沢山議論してあがいてきた結果をやっと実にできそうな予感のする年。次のステップにいける年にできたらと思う。

宮腰：人事コミュニティ形成。事務局長の西島が倒れないように、翌月の休みを決めるとか労務回りをやっていく。活動サポート基金によって新しいメンバーを増やしたいし、学生理事が来年度増えている状態を目指したい。

三本：攻めの議論ができる、OG/OB とつながれるような一年にしたい。自主財源の部分は危機感を持っている。NGO/NPO 業界では本当に自主財源が大事。それがあればあるほど言いたいことを言えるしやりたいことをできる。ASJ の若者・環境・経済の構造を変える活動というのは、自主財源づくりにおいては宝箱のような存在。ASJ だけの問題ではなくて多くの NGO を勇気づけることもできる。だから力を貸していただきたい。

田川：金融の流れがだいぶ変わり、昔からエコ貯金が伝えてきたことが実現しつつある。それにより一方で、私たちの言うことが陳腐化してくる場合もある。これからも新しい人たちにどうやって伝えていくかを、工夫しながらやっていけたらよいと思う。

小林：（資料より一部抜粋）

予算に関して、昨年度は赤になる可能性もありましたが、結果的には若干の黒になりました。しかし、今年度の予算案は内部留保も使っていくというこれまでにない、枠組みになっています。一方で、依然として活動会員数が減少傾向にあるものの、核ごみをはじめ、各種団体から様々な期待が寄せられています。資金調達や活動協力者等の面からそういった状況であることがわかるかと思います。社会的な変革を出してこそその NGO ですので、前向きに活動を展開していくことを期待して、私からの挨拶とさせていただきます。

【質疑応答・意見交換】

質問（事前）：西島さんが共同代表になることは反対です。西島さんは被雇用者の事務局長であり、雇用者である理事会を代表する人物とは明確に分離する必要があると思います。

回答：他の団体での例は少ないですが、団体によって特色は異なりますし、理事内で議論した上で決めました。

※補足：登記上の代表を西島に、共同代表として浜田も着任します。理事会としては、「プロジェクトリーダーが代表になるべき」という意見が総意としてありました。西島個人としては、今後数年間は役割をまっとうすることを前提に、組織の安定化と事務手続き上のメリットを考慮して立候補しました。ただ、数年の間に活動・組織・財政の計画を軌道に乗せ、その中で次なる代表を育てていく所存です。

以上の報告を持って、議長は 16 時 55 分閉会を宣言しました。

以上